

新刊
紹介

著者：気候変動による水害研究会
編集：日経コンストラクション
発行：株式会社 日経BP
仕様：A4判 / 184ページ
価格：2,200円(税別)

水害列島日本の挑戦

- ウィズコロナの時代の地球温暖化への処方箋 -

昨年日本各地で甚大な被害をもたらした「令和2年7月豪雨」をはじめ、ここ数年、日本列島に爪痕を残す大雨や台風は年々増加している。最近の水害では、新幹線の車両基地や空港滑走路の水没、タワー・マンションの電気室・機械室の水没、工場からの油や危険物質の流出、医療機関や高齢者施設の水没による電源喪失など、これまでに経験したことのないような深刻な事態が、様々な場所で多数発生している。地球温暖化の影響と考えられるこうした水害や土砂災害の激甚化はとどまるところを知らない。

毎回、「これまで経験したことのないような特別警報級の強さの台風であり、最大級の警戒が必要」などと注意喚起をするだけでなく、自らの安全や危険について日頃から見極める目を養うなど、これまでにない新たな対策を考える必要があるのではないだろうか。災害の犠牲となってからでは遅い。

本書では、近年の気象災害によってもたらされた被害を分析し、多様化・複雑化する水害・土砂災害

に対して、日本のインフラが防災・減災を実現するための対策や危機管理などといった課題とその対処法を、最近の知見をもとに簡潔にまとめている。

また、国土交通省が新たに打ち出した「流域治水」の考え方を含めたハード・ソフトそれぞれに必要な対策を網羅。耐越水性の高い粘り強い堤防などの技術的な観点や「マイ・タイムライン（住民一人ひとりがとる防災行動計画）」の実践など、住民避難の取組みを具体的な事例で示している。

併せて、災害対策基本法に基づく指定公共機関である日建連、（一社）全国建設業協会、（公社）全日本トラック協会のように、行政と一体となり防災に寄与している民間団体、企業の姿も紹介されている。

このほか、新型コロナウイルス感染症という新たなリスクについても解説している。避難所での感染防止対策の紹介に加え、日常生活と社会活動を支えるために欠かせない存在である建設業従事者の新型コロナウイルス感染症に対する取組みも記載している。

発行：一般社団法人 日本建設業連合会

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 東京建設会館

TEL 03-3553-4095 FAX 03-3551-4954

URL <https://www.nikkenren.com/>

発行者：山本徳治

企画・編集：一般社団法人 日本建設業連合会 広報委員会

制作：株式会社Kプロビジョン

デザイン・印刷：株式会社スリーライト